

第46期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日



...for patient comfort.



ごあいさつ

―通期実績は過去最高を更新、次なるフェーズへの挑戦―



株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2026年3月期は、5か年の中期経営計画の折り返し地点として、2025年5月に上方修正した目標数値に向け、成長戦略のさらなる加速に邁進してまいりました。その結果、売上高、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益において過去最高を更新することができました。主力事業のEP/アブレーションにおいては、パルス・フィールド・アブレーション（PFA）の普及による影響を受けましたが、新領域である脳血管関連と消化器は着実に拡大し、収益の柱としての存在感を高めています。

2027年3月期は、事業の堅調な成長が続く見通しですが、成長投資の加速により減益を予想しています。一時的に利益は低下するものの、中長期的な企業価値の向上を見捉えれば、この投資は合理的かつ必要なものだと考えています。当社の中核事業であるEP/アブレーションと心血管関連においては研究開発を加速させ、新製品の開発や自社製品のグローバル最適化を進めてまいります。また、2027年3月に予定している本社移転も、今後の増員を見据え、組織間の連携強化や業務効率の改善を図るための重要な投資と考えています。このような成長投資を通じて「グローバル医療機器メーカー」への進化を一歩ずつ確実に遂げてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員 鈴木 啓介

2027年3月期（当期）の業績見通しについて教えてください。

2027年3月期の連結業績は、売上高632億円（前期比6.8%増）、営業利益107億円（同15.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益80億円（同14.4%減）となる見通しです。

売上高は、すべての事業領域で増収を見込んでい

ます。EP/アブレーションでは、心房細動のアブレーション症例数の増加を背景に、心腔内除細動カテーテル等が成長をけん引するほか、2026年3月からフルローンチした自社製品の心房中隔穿刺利用高周波ワイヤ「XEROstar」を大きく伸ばす計画です。心血管関連では、Frozen Elephant Trunkを中心に引き続き安定成長が期待できます。新領域の脳血管関連

および消化器については、それぞれ二桁成長を継続する見込みです。

利益については、売上総粗利率の低下と販管費の増加により、当期においては営業減益となる見込みです。売上総利益率の低下は、保険償還価格の改定に伴う販売単価の下落と製造コストの増加によるものです。また、販管費については、研究開発や人件費などの先行投資や本社移転に関連する一過性の費用があることから、当期は大きく増加します。

以上より、当期は減益を見込んでおりますが、販売は堅調に推移する見通しであり、かつ、製造コストも改善余地があります。したがって、来期以降は成長投資を一定水準で継続しつつも、再び力強い増益基調に戻ることを想定しています。

なお、当期の配当予想については、1株当たり56円（前期比2円増、配当性向49.1%）としています。

Q 社名（商号）の変更と本社移転の概要、および、そのねらいについて教えてください。

A 当社は、2027年3月1日をもって社名を「JLL Med株式会社」（呼称：ジェイエルエル メッド）へ変更いたします。さらに、同日に本社を大井町（品川区）の「OIMACHI TRACKS BUSINESS TOWER」へ移転いたします。

今回の社名変更の根底にあるテーマは「継承と進化」です。新社名の「JLL」には、「Japan Lifeline」として医療現場の皆さまと築き上げてきた信頼と歴史を、これからも変わらぬアイデンティティとして受け継いでいくという「継承」の意志が込められています。そして、新たに社名に冠した「Med」は、

「Medical」から取っており、私たちが医療の未来を支えるプロフェッショナルとして、国内にとどまらず、世界中の人々の健康と命に貢献するグローバル医療機器メーカーへと「進化」していくという決意を表しています。

また、新本社への移転は、今後の事業拡大やグローバル化に伴う人員増加を見据えた経営基盤の強化を目的としています。これまで分散していた本社機能をワンフロアに集約することにより、組織間の連携強化を促進するとともに、業務効率化を図ってまいります。

長年親しまれた「日本ライフライン」から「JLL Med」への社名変更、そして新本社への移転は、当社にとって大きな転換点です。「継承と進化」の想いを胸に全社一丸となり、国内はもちろんのこと、グローバル市場で健康社会の実現に貢献してまいります。

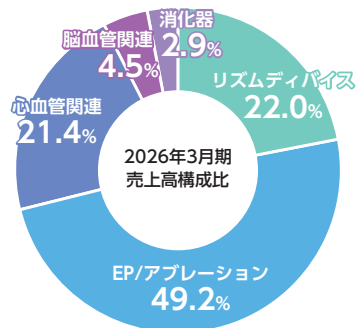


OIMACHI TRACKS BUSINESS TOWER

販売ハイライト

品目別の販売状況

- リズムデバイスは、コア製品のS-ICDは前期並みを維持しましたが、ペースメーカーにおいて他社のリードレスペースメーカーの影響を受けたことにより、わずかに減収となりました。
- EP/アブレーションは、PFAの普及により一部の製品で減収となりましたが、コア製品の心腔内除細動カテーテルが堅調に推移し、大腿静脈用止血デバイスも採用施設数を拡大したことで、増収となりました。
- 心血管関連は、コア製品のFrozen Elephant Trunkの販売数量が伸長したほか、人工血管が市場シェアを拡大したことで、増収となりました。
- 脳血管関連は、血栓吸引カテーテルおよび塞栓用コイルが新モデルの導入により好調に推移したほか、ステントリトリバーが採用施設数を拡大したことで、大幅増収となりました。
- 消化器は、胆管チューブステントが新モデルの発売を背景に好調に推移したほか、内視鏡ガイドワイヤ等の製品も着実に販売数量を伸ばしたことで、増収となりました。



リズムデバイス

売上高
13,057 百万円
(前期比 $\triangle 1.6\%$)

▼主要取扱品目

- ・心臓ペースメーカー
- ・T-ICD（経静脈植込み型除細動器）
- ・S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）など

EP/アブレーション

売上高
29,109 百万円
(前期比 $+4.5\%$)

▼主要取扱品目

- ・EP（電気生理）カテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル
- ・大腿静脈用止血デバイス など

心血管関連

売上高
12,657 百万円
(前期比 $+3.7\%$)

▼主要取扱品目

- ・人工血管
- ・Frozen Elephant Trunk
- ・ステントグラフト など

脳血管関連

売上高
2,661 百万円
(前期比 $+44.5\%$)

▼主要取扱品目

- ・塞栓用コイル
- ・血栓吸引カテーテル
- ・ステントリトリバー など

消化器

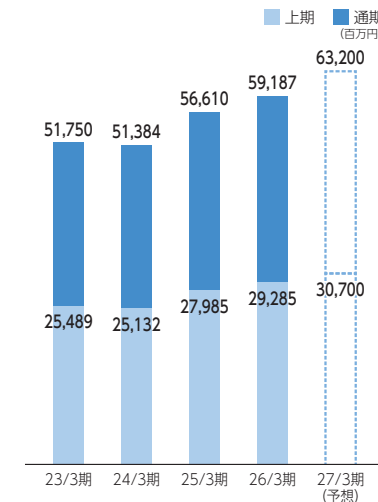
売上高
1,701 百万円
(前期比 $+17.4\%$)

▼主要取扱品目

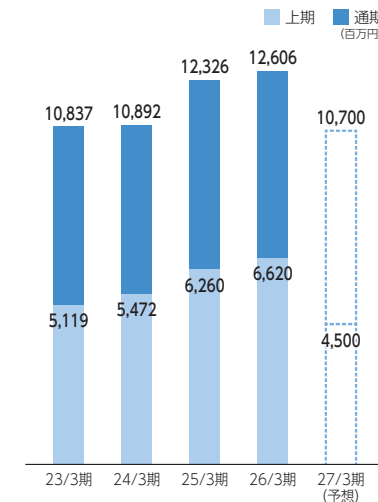
- ・胆管チューブステント
- ・大腸用ステント
- ・肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針 など

主要連結財務データ

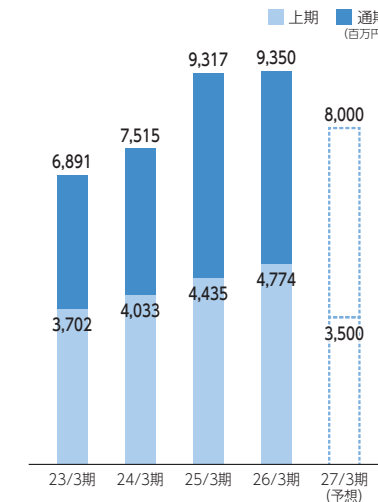
売上高



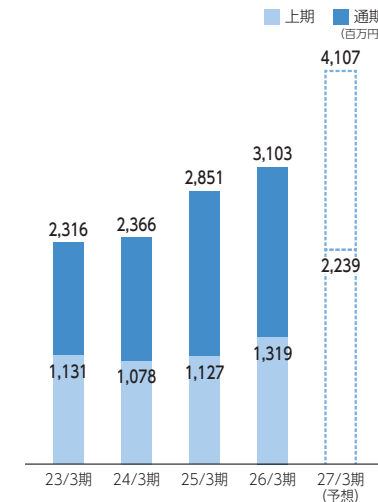
営業利益



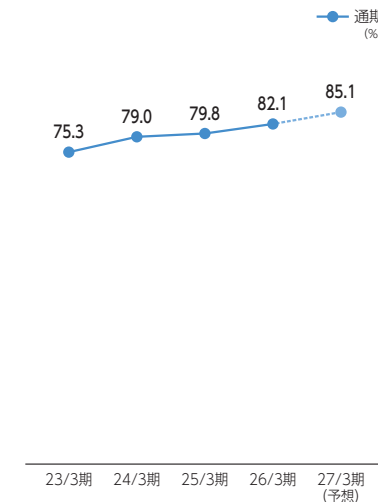
親会社株主に帰属する当期純利益



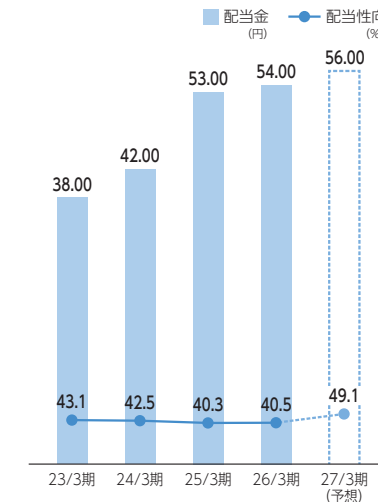
研究開発費



自己資本比率



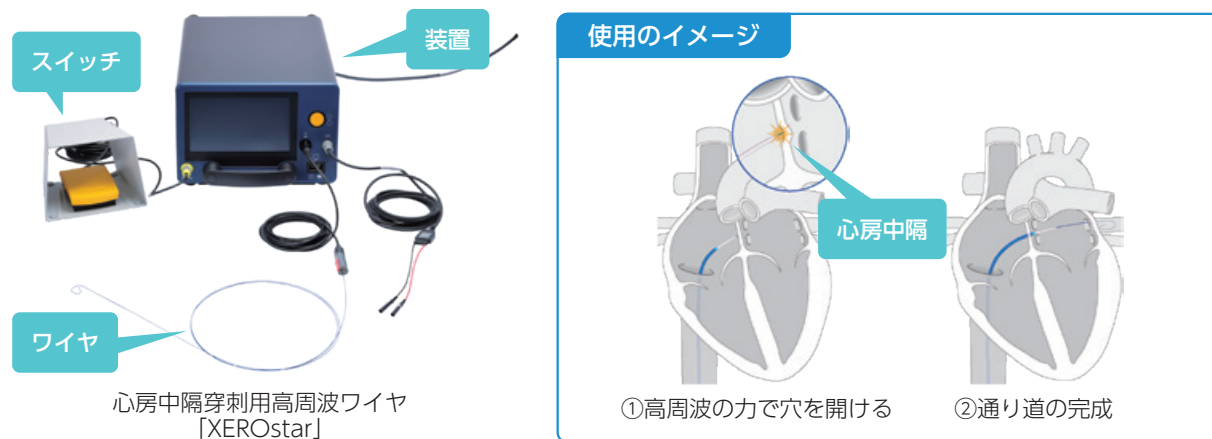
配当金・配当性向



特集 ―心房中隔穿刺用高周波ワイヤ「XEROstar」―

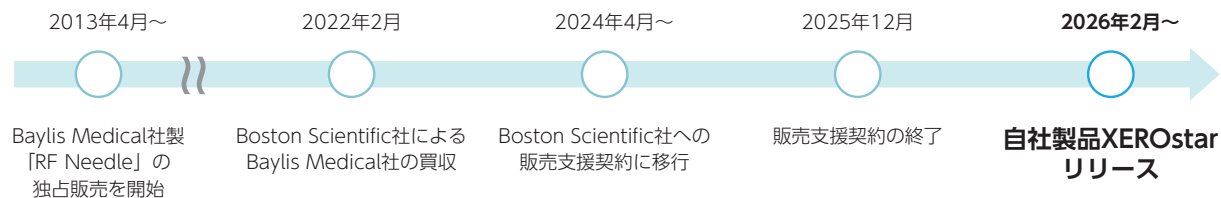
■ 心房中隔穿刺用高周波ワイヤ「XEROstar」とは

XEROstar（ゼロスター）は、心房細動（心臓が細かく震えて脈が乱れる不整脈）の治療で使用される医療機器です。この治療ではカテーテルを太ももの血管から挿入し、心臓の右心房から左心房へ進めますが、その間には「心房中隔」という壁があるため、そのままでは患部までカテーテルを運ぶことができません。そこで、心房中隔に小さな穴を開け、カテーテルの通り道を作る処置（心房中隔穿刺）が行われます。XEROstarは、この処置をより安全かつスムーズに行うために開発されました。



■ XEROstar販売までの経緯

当社は2013年、高周波（熱エネルギー）で心房中隔穿刺を行う医療用針を、仕入商品として日本に初めて導入しました。それ以降、本商品は急速に普及し、高周波による心房中隔穿刺は心房細動治療における新たなスタンダードとして定着しました。その後、仕入先のメーカーが他社に買収されたことで、当社による取扱いは2025年12月をもって終了することとなりました。こうした状況を受け、当社は自社開発へと舵を切り、2026年2月に自社製品XEROstarの販売を開始しました。



■ XEROstarの競争優位を支える3つの強み

1. 「器具の交換ゼロ」がもたらす手術のシンプル化

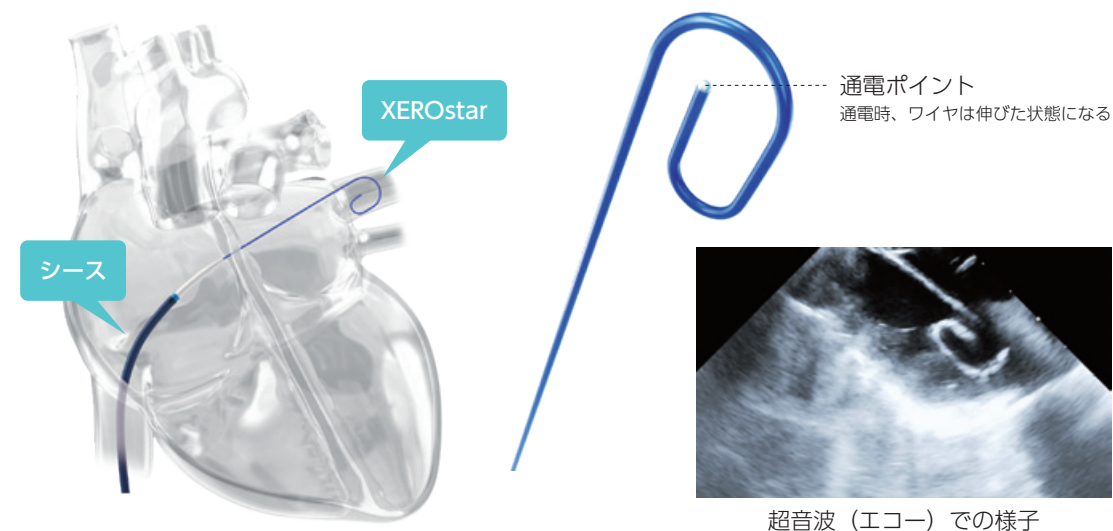
従来の心房中隔穿刺では、カテーテル等の通り道となる管（シース）から「道しるべとなるワイヤ（ガイドワイヤ）」を一度抜き出し、「壁に穴を開ける針」に差し替える必要があります。本製品は、ワイヤ自体に心臓の壁に穴を開ける機能があるため、器具の交換を必要とせず、手術の工程をシンプルにします。

2. 従来の手術器具をそのまま使用できる高い汎用性

本製品は、一般的なガイドワイヤと同じ0.032インチという径を採用しているため、従来から使用されている細径シースにもそのまま通すことができます。これにより、医師は使い慣れた器具を使って心房中隔穿刺を行うことができます。

3. 独自の先端形状による安全性の追求

手術の安全性を高めるために、先端が小さく丸みを帯びた独自の形状（Half Pigtail形状）を採用しています。これにより、ワイヤの先端で心臓の壁を傷つけるリスクを低減するとともに、レントゲンや超音波（エコー）の画面上でもワイヤの位置が確認しやすくなっています。





2026年3月、株主の皆さまとの対話を深める取組みとして、個人株主さま向けの工場見学会を開催いたしました。前回発行の株主通信から応募し当選された17名の株主さまが戸田ファクトリーにご来場されました。

当日は、当社の生産体制や直近の研究開発における注力テーマについてご説明した後、見学通路からEPカテーテルの製造ラインをご見学いただきました。当社の自社製品の特長である「特殊押出工法」の設備をご覧いただき、製造方法についても詳しくご紹介いたしました。さらに、心臓モデルを用いたカテーテル挿入のデモンストレーションや、高周波で組織を焼灼するアブレーションの実験では、当社の技術力や製品の実際の使用方法の理解を深めていただきました。プログラムの全行程を通じて、株主さまからは活発にご質問をいただきました。工場見学の終了時には、温かい激励や応援のお言葉も頂戴いたしました。今後も株主さまとの交流および当事業への理解促進のため、定期的な開催を検討してまいります。

会社概要 (2026年3月31日現在)

商 号	日本ライフライン株式会社
所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設 立	1981年2月6日
資 本 金	2,115百万円
従 業 員 数	連結1,304名 単体1,085名
連 結 子 会 社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

取締役 (2026年6月26日現在)

代表取締役社長執行役員	鈴木 啓介	社外取締役	池井 良彰
代表取締役副社長執行役員	村瀬 達也	社外取締役	川原奈緒子
取締役専務執行役員	高宮 徹	社外取締役	中川 理恵
取締役常務執行役員	江川 毅芳	取締役 (常勤監査等委員)	高橋 省悟
取締役常務執行役員	山田 健二	社外取締役 (監査等委員)	苅米 裕
取締役常務執行役員	伊藤 孝志	社外取締役 (監査等委員)	太田 知成
取締役上席執行役員	干場由美子		

株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告方法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。